

# みんなの健康ラジオ

『副鼻腔炎とは？』

(2024年11月21日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜市立市民病院

塩野 理

# 鼻の構造

- 鼻の中の空洞は鼻腔（びくう）と呼ばれる
- 鼻腔の周りに副鼻腔（ふくびくう）と呼ばれる空洞があり、細い孔で鼻腔とつながっている
- 副鼻腔は左右に4つずつ、前頭洞、篩骨洞、上顎洞、蝶形骨洞と呼ばれるものがある
- 前頭洞は眉間の部分、篩骨洞は目と目のあいだ、上顎洞はほっぺたの奥、蝶形骨洞は目の奥にある
- 鼻腔と副鼻腔は地続きなので、鼻副鼻腔と呼ばれる

# 鼻副鼻腔の機能

- 鼻は空気の通り道
- 鼻から吸い込んで、気管支や肺に行く空気は、鼻副鼻腔の粘膜に接しながら出たり入ったりする
- 鼻副鼻腔の粘膜から**24時間**絶えず鼻水が産生され、粘膜の表面を覆っている。鼻水にはゆっくり流れていて、鼻の後ろへ向かい、のどに流れ落ちる
- 鼻腔と副鼻腔で作られる鼻水は**1日2リットル以上**！
- 吸い込んだ空気に鼻水が蒸発することで、湿度や温度が調整される
- 空気中のホコリやばい菌、花粉などが鼻水にくっつくことで、気管支や肺に行く空気がきれいになる
- また、吸い込んだ空気の中に、におい物質が含まれていると、においを感じる

# 急性副鼻腔炎とは？

- 副鼻腔に炎症が起こっている状態を副鼻腔炎と呼ぶ。鼻腔と副鼻腔は繋がっているため、通常は鼻腔と副鼻腔の両者に炎症が起こっている
- いつから炎症が起きているかによって、急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎とに分かれる。1か月以内を急性、3カ月以上を慢性、その間は治まりつつある急性のものと、慢性に移行しつつある急性のものがある
- 誰でも、風邪を引いて黄色い鼻水が出ているときは、急性副鼻腔炎の状態である

# 急性副鼻腔炎の診断と治療

- 鼻を捻げて中を見たり、細いファイバースコープを入れて奥の方まで見ると、黄色の鼻水が溜まっていて粘膜が腫脹しているのがわかる
- 顔のレントゲンやCT検査で、副鼻腔に影があることがわかる
- 急性副鼻腔炎は純粹な感染症であり、発症数日以内はウィルス性である。ウィルスに抗生物質は効かないので、鼻水を止めたり、鼻詰まりを改善させたりするお薬、つまり対症療法となるお薬を投与する
- 発症後1週間ほどで細菌性の副鼻腔炎となり、抗生物質を投与する
- 副鼻腔は目や脳と近いため、重症化すると目が見えなくなったり、髄膜炎になったりするので注意が必要